

## 編集後記

『中京大学文学会論叢』第九号をお届けする。

今号は、今年度限りで退職なさる播磨良紀先生の「退職記念号」としての編集となった。南北朝時代の中国文学から、国語科教育法の研究まで、論文七篇を掲載する。バラエティに富むものとなった。お忙しい折にご投稿くださった会員の皆様に深謝申し上げます。

播磨先生には、歴史文化学科の開設の中心的な存在としてご尽力いただいたと聞く。別冊にも先生のお人柄がよく描かれていると思うが、学部の運営だけでなく、我々の活動もよくみてくださっており、文学会の発展にもご尽力いただいた。心から感謝申し上げますとともに、先生の益々のご健勝とご活躍を祈念申し上げます。

新型コロナウイルス感染症対策の一環で、オンライン形式で行わざるを得なかった文学会春季・秋季大会講演会を、一部ではあるが、対面形式で開催できたことを喜ばしく思う。時勢に合わせて、本学もコロナウイルス感染症対策を緩和する流れとなっている。どのような形態となるかは状況によるとしか言えないが、執行部としては、感染対策を行いながら対面での開催の可能性を模索している状況である。二〇二三年度春期大会のご案内は、四月以降、改めてお送りするので、今しばらくお待ちいただきたい。本会の発展のために、会員諸士には奮ってご参加いただければ幸いです。

(前)

中京大学文学会論叢 第九号

(『中京国文学』通号 第四十二号)

令和五年三月十五日 発行

編集兼  
発行者 中京大学文学会

代表 播 磨 良 紀

名古屋市昭和区八事本町一〇一ノ二

電話 (〇五二) 八三五 七一―

振替 名古屋 六一六〇〇三〇

印刷所 株式会社 一 誠 社

名古屋市昭和区下構町二ノ三二

電話 (〇五二) 八五一 一一七一

表紙題字(書) 樽本樹邨(英信) 名誉教授